

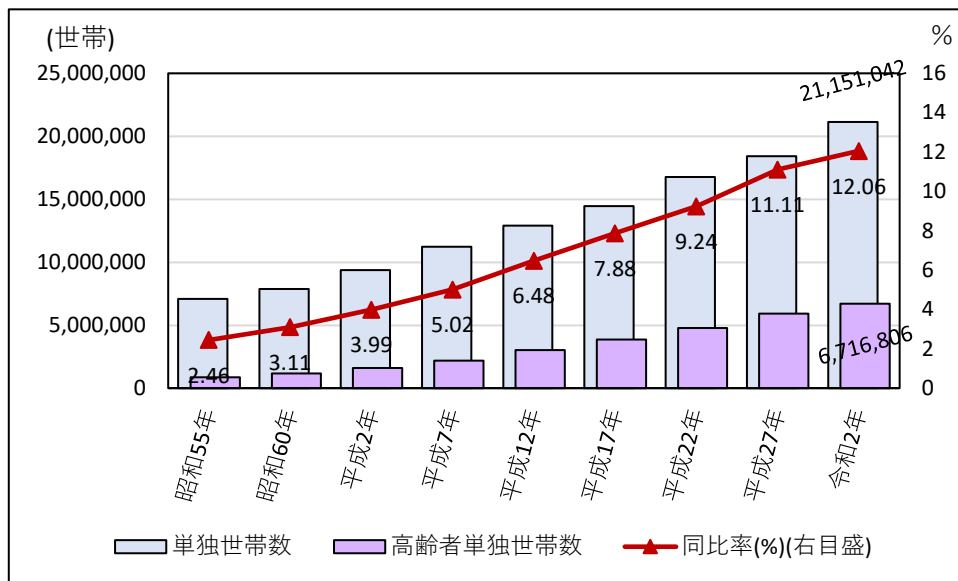
## 4.【高齢者単独世帯比率】ひとり暮らし高齢者が世帯数の35%という町も

前回は、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯を「高齢夫婦世帯」としてその割合を示しましたが、ここでは、「高齢者単独世帯」数の割合をみることにします。

ひとり暮らしの世帯が「単独世帯」ですが、その「ひとり」が65歳以上の高齢者である場合を「高齢者単独世帯」といいます。全国的に、いわゆる「核家族化」や少子化等で世帯規模の縮小化が継続しており、そうした中で「単独世帯」（年齢問わず）は令和2年で2,115万世帯、一般世帯（施設等の世帯を除いた世帯）数全体の38.0%にまで上昇し、1/3以上がひとり暮らしという状況です。この割合は昭和55年からの40年間でほぼ倍増しています。

その中で「高齢者単独世帯」の増加はさらに顕著で、昭和55年からの40年間で約7.6倍となり、令和2年には672万世帯、一般世帯数計の12.1%を占めるに至っています。高齢者がひとり暮らしになるのは、離死別など様々な要因が考えられますが、これに対しては、高齢夫婦世帯以上に保健や福祉面での配慮が必要で、孤独死などを避ける意味でも、地域での見守りや声かけ、社会参加の促進などに関する施策が求められるところです。

全国の高齢者単独世帯数とその割合の推移



注) 高齢者単独世帯数比率は、一般世帯数計に対する割合 資料：国勢調査

### 都道府県の高齢者単独世帯比率は、最大と最小で1.9倍の差

令和2年での全国の「高齢者単独世帯比率」は上述のように12.1%ですが、これをまず都道府県別に比べてみましょう。

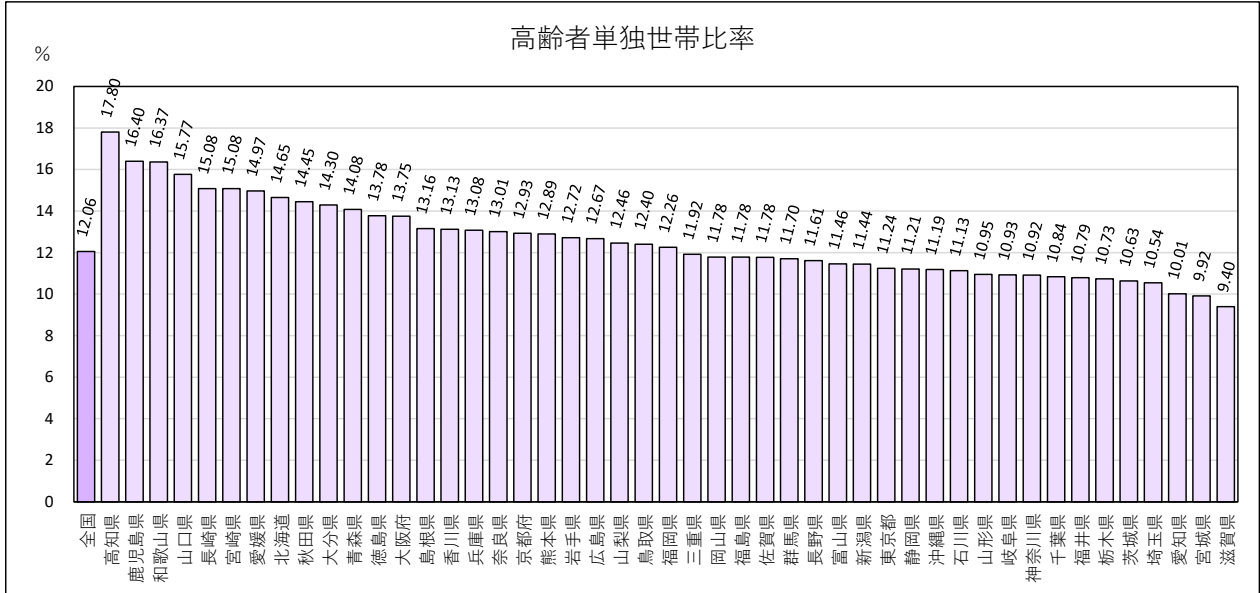
47都道府県のうち最も「高齢者単独世帯比率」が高いのは高知県で、17.8%と、全国平均の1.5倍に近い水準です。2位以下は、鹿児島県、和歌山県、山口県、長崎県、愛媛県と続き、西日本の県が目立ちます。逆に最も低いのは滋賀県の9.4%で、最上位の高知県とは約1.9倍の差となっています。

同じ近畿地方の中でも、3位の和歌山県と最小(47位)の滋賀県で1.7倍以上の差があることが興味深いですが、滋賀県が国土幹線上にあって京都や大阪に若い人たちが通勤可能であるのに対し、和歌山県は中・南部の全体が大阪への通勤には遠く、若者層が流出して高齢者が残されるケースが多い

ことの現れとも考えられます。

東京都は 33 位（11.2%）で全国平均より低いですが、人口の分母が大きいので、高齢者単独世帯数は 81.1 万世帯と多く、全国の 12% を占めます。大阪府は 13 位（13.7%）で、高齢者単独世帯数は 56.7 万世帯で、大都市圏域でのそのボリュームに驚かされます。

### 都道府県別の高齢者単独世帯比率



資料：令和 2（2020）年国勢調査

### 市区町村別では最大と最小で7倍近い差があり、最小は富士山麓のあの村

次に、市区町村別の「高齢者単独世帯比率」を比較し、上位・下位の市区町村名をその値とともに以下の表に示します。なお、ここでの「区」は東京特別区を指し、政令指定都市はひとつの「市」として扱います。令和 2 年の市区町村数は 1,741（北方領土の 6 村を除く）ですが、福島県双葉郡の 8 町村は東日本大震災・原子力発電所事故の影響で特殊事情にあることから対象から除いており、比較対象は 1,733 市区町村となります。また、全市区町村での順位とともに、市及び東京特別区のみ絞った中での順位も併せて示します。

令和 2 年で「高齢者単独世帯比率」が最も高いのは山口県上関町で、その値は 35.3% です。上記の山口県の値の倍以上です。山口県は、瀬戸内海に突き出た室津半島の先端部といくつかの島で構成され、歴史的には海上交通の要衝であったこともありますが、今は大都市圏からも遠く、人口の減少が急激に進んでおり、若年層が流出して高齢者が多く残されるという典型的な例とも見られます。因みに、令和 2 年の人口の高齢化率（65 歳以上人口の割合）は 56.4% であり、半数以上が高齢者です。活性化の起爆剤として原子力発電所の誘致が議論されていますが、賛否が入り乱れ結論が出ていません。

このほか、「高齢夫婦世帯比率」の場合に類似して、奈良県、和歌山県、三重県が接する山間部の町村や、北海道の旧産炭地域、特に西日本の中山間地域の町村などが、上位の中で目立ちます。「市」で最も値が高いのが北海道夕張市で、三笠市、歌志内市、赤平市、芦別市なども上位にあります。

逆に、最も「高齢者単独世帯比率」が低いのは山梨県忍野村（4.5%）で、茨城県つくば市（5.1%）がこれに次ぎます。忍野村は富士山の北麓にあり、観光地の忍野八海などで有名ですが、工作機械類の世界的メーカーである「ファナック」の本社と工場があり、人口が増加を続けているところです。若い人口の流入により、相対的に高齢者の割合が少なくなっていると見られます。

市区町村別の高齢者単独世帯比率の上位・下位（令和2年国勢調査）

全市区町村での順位

「市」及び「区」（東京特別区）に絞った中での順位

順位	(県)	市町村名	高齢者単独世帯比率(%)
上位	1	山口 上関町	35.28
	2	高知 大豊町	34.70
	3	高知 東洋町	33.63
	4	高知 仁淀川町	32.80
	5	山梨 早川町	32.74
	6	長野 天龍村	32.44
	7	和歌山 北山村	32.43
	8	北海道 上砂川町	32.34
	9	奈良 川上村	31.52
	10	和歌山 古座川町	30.79
	11	奈良 下北山村	30.49
	12	群馬 南牧村	30.36
	13	山口 周防大島町	30.01
	14	奈良 東吉野村	29.47
	15	和歌山 すさみ町	29.12
	16	北海道 夕張市	28.89
	17	高知 土佐清水市	28.75
	18	奈良 上北山村	28.68
	19	静岡 熱海市	28.51
	20	奈良 御杖村	28.29
.	.	.	.
.	.	.	.
下位	1714	愛知 豊田市	6.93
	1715	岐阜 瑞穂市	6.92
	1716	滋賀 草津市	6.91
	1717	岩手 矢巾町	6.89
	1718	石川 川北町	6.80
	1719	栃木 上三川町	6.77
	1720	愛知 飛島村	6.65
	1721	秋田 大湯村	6.59
	1722	宮城 利府町	6.44
	1723	千葉 浦安市	6.23
	1724	石川 野々市市	6.07
	1725	宮城 大和町	5.93
	1726	愛知 みよし市	5.90
	1727	宮城 富谷市	5.89
	1728	愛知 幸田町	5.76
	1729	岐阜 輪之内町	5.56
	1730	富山 舟橋村	5.53
	1731	愛知 長久手市	5.43
	1732	茨城 つくば市	5.11
	1733	山梨 忍野村	4.51

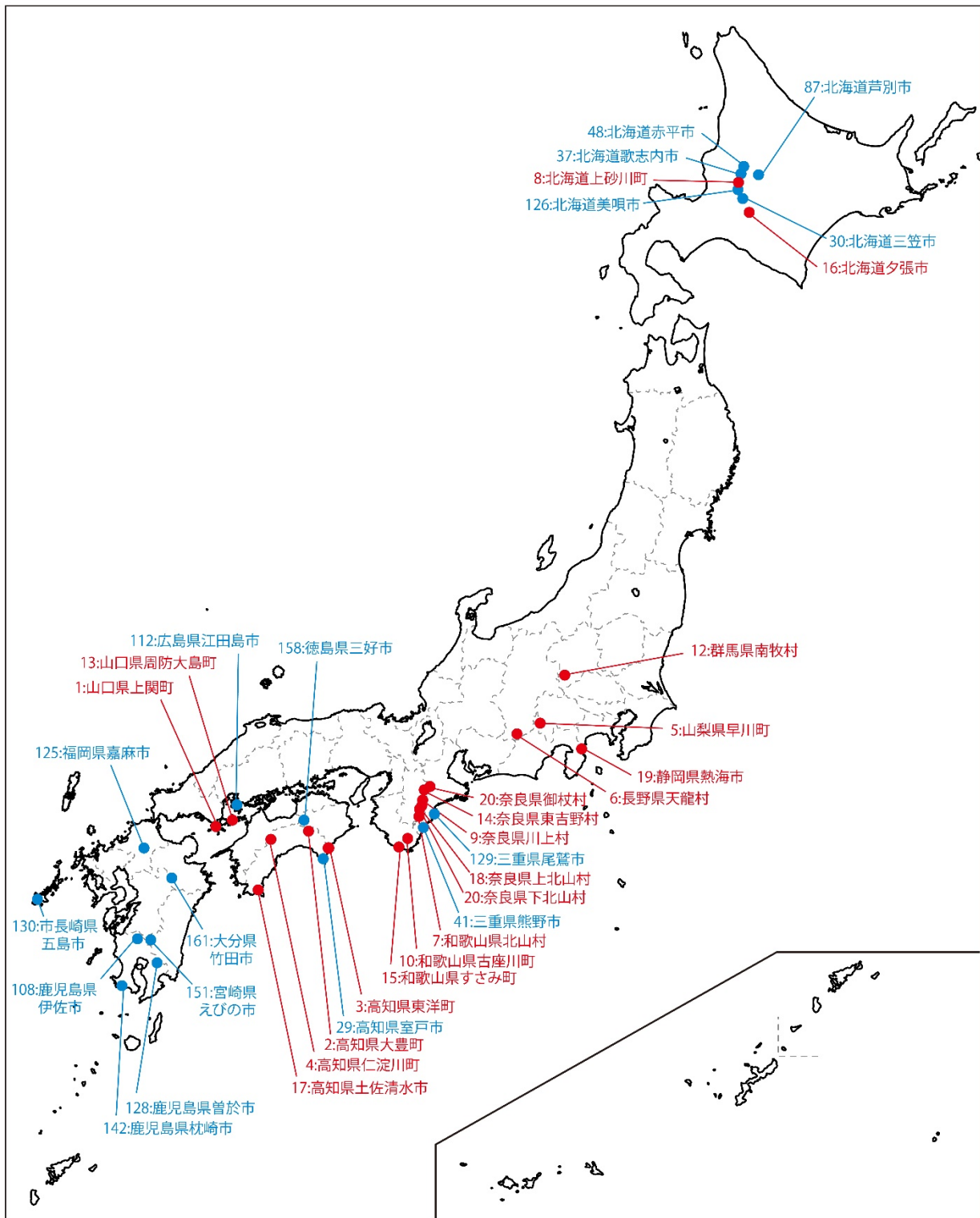
順位	全体順位	(県)	市区名	高齢夫婦世帯比率(%)
上位	1	16	北海道 夕張市	28.89
	2	17	高知 土佐清水市	28.75
	3	19	静岡 熱海市	28.51
	4	29	高知 室戸市	27.30
	5	30	北海道 三笠市	27.30
	6	37	北海道 歌志内市	26.53
	7	41	三重 熊野市	26.10
	8	48	北海道 赤平市	25.34
	9	87	北海道 芦別市	23.90
	10	108	鹿児島 伊佐市	23.12
	11	112	広島 江田島市	23.00
	12	125	福岡 嘉麻市	22.77
	13	126	北海道 美唄市	22.67
	14	128	鹿児島 曾於市	22.67
	15	129	三重 尾鷲市	22.66
	16	130	長崎 五島市	22.58
	17	138	宮崎 えびの市	22.36
	18	142	鹿児島 枕崎市	22.26
	19	158	徳島 三好市	21.83
	20	161	大分 竹田市	21.76
.	.	.	.	.
.	.	.	.	.
下位	796	1693	滋賀 守山市	7.66
	797	1695	愛知 田原市	7.60
	798	1696	愛知 大府市	7.53
	799	1698	茨城 守谷市	7.44
	800	1701	静岡 菊川市	7.35
	801	1702	愛知 安城市	7.30
	802	1704	愛知 高浜市	7.19
	803	1705	滋賀 栗東市	7.14
	804	1706	静岡 袋井市	7.13
	805	1710	宮城 名取市	7.06
	806	1713	愛知 日進市	6.94
	807	1714	愛知 豊田市	6.93
	808	1715	岐阜 瑞穂市	6.92
	809	1716	滋賀 草津市	6.91
	810	1723	千葉 浦安市	6.23
	811	1724	石川 野々市市	6.07
	812	1726	愛知 みよし市	5.90
	813	1727	宮城 富谷市	5.89
	814	1731	愛知 長久手市	5.43
	815	1732	茨城 つくば市	5.11

最も「高齢者単独世帯比率」が高い上関町と最も低い忍野村では、その値に7倍近い差があるわけで、高齢者のひとり暮らしを支援する施策や地域の仕組みづくりも、それぞれの環境特性を踏まえた工夫が求められます。この数値が低いからと言ってひとり暮らし高齢者が安心というわけでは必ずしもないわけで、人口の多い都市部でも孤立を防ぐ見守りシステムなどが重要になると思われます。

## 「高齢者単独世帯比率」上位の市区町村マップ（令和2年国勢調査）

※全市区町村の1～20位を赤で表示しています（数値は順位）。

※「市及び東京特別区」に絞った上位20位までのうち上記全国上位20に含まれるもの以外を青で表示しています（数値は全国順位）。

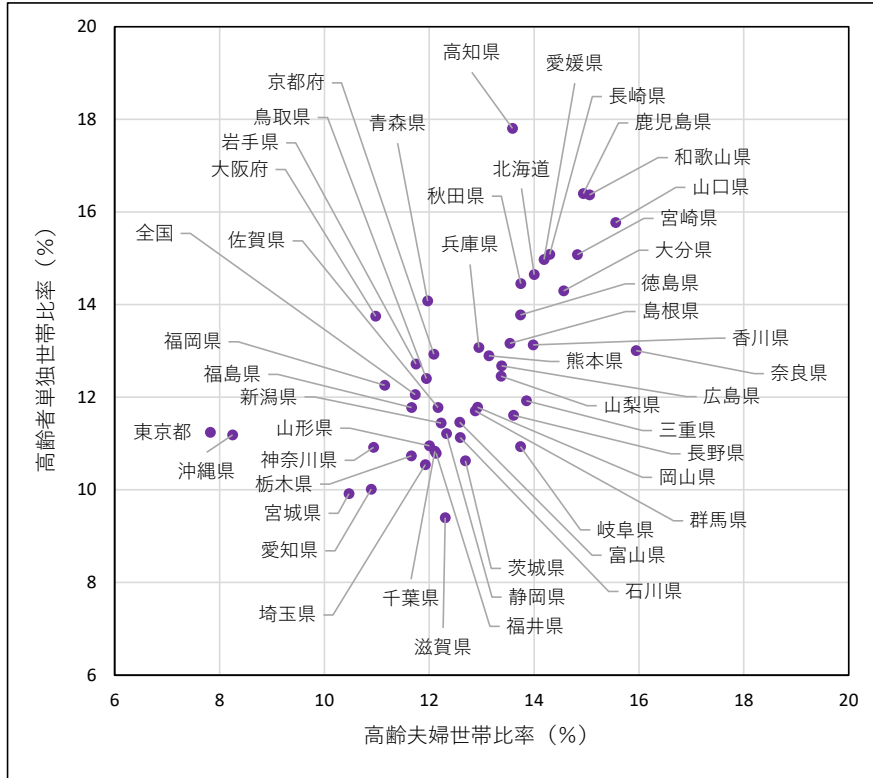


### ☞ 高齢夫婦世帯比率と高齢者単独世帯比率は必ずしも明確には同調しない

ここで、今回の「高齢者単独世帯比率」と、前回の「高齢夫婦世帯比率」の関係をみてみましょう。以下に、都道府県別と市区町村別での相関図を示しますが、おおよそ正の相関があるようにも見え

ますが、それほど強い相関ではなく、高齢夫婦世帯比率が同程度でも高齢者単独世帯比率にはかなりの幅があり、ひとくちに高齢化といっても様々な様相があるといえます。ただ、高齢夫婦世帯もいずれは高齢者単独世帯になる可能性も高いわけで、連続的な支援等の福祉環境整備が重要とも考えられます。

高齢夫婦世帯比率と高齢者単独世帯比率の関係（都道府県）（令和2年国勢調査）



高齢夫婦世帯比率と高齢者単独世帯比率の関係（市区町村）（令和2年国勢調査）

